

# アライグマの生態と在来種への影響についての講演会

里山農園付近ではこれまでイノシシを集中に獣害対策を取ってきました。今年はアライグマが数頭の集団で行動している写真が撮影されたことをきっかけに、対応策として市貸出の檻を仕掛け、6月から7月末までに3頭捕獲しました。しかし、その後撮影された写真からこの程度の捕獲では間に合わないことを痛感させられました。このままでは、希少生物の生息が侵される危険性が発生しかねないと予想されます。各地でスイカ等の農作物被害も発生しているとされています。こうした状況から、有識者から助言をいただく講演会を下記のとおり実施します。

## 記

### 1、現地視察

日時：令和6年12月12日（木） 11時00分～12時00分

場所：参加予定者にお知らせします

### 2、講演会（アライグマの生態と在来種への影響）

日時：令和6年12月12日（木） 13時30分から15時00分

場所：京田辺市立中央公民館

講師：栗山 武夫 氏

（兵庫県立大学自然・環境科学研究所准教授/兵庫県森林動物研究センター主任研究員）

一緒に  
考えましょう



**アライグマ 畑も生態系も食い荒らす**

マンゲースの教訓

「ダニの運び手」感染症も媒介 よく捕まるがよく繁殖

アライグマによる悪影響

生態系への影響

- 希少種などを捕食
- 野鳥の営巣を妨害

農作物被害

- 2000年頃から急増
- 近年は毎年4回行前線の被害

建物への被害

- 神社の柱にひっかけ
- 民家の天井裏で糞尿を糞す

感染症を運ぶ

- ダニ媒介感染症
- SFTS
- 日本紅斑熱など
- 海外では狂犬病

アライグマの生態

土井さんはアライグマを「ダニの運び手」として捉えています。アライグマは、ダニを運ぶことで、感染症を媒介する役割を果たしています。また、アライグマは、畑や生態系を食い荒らすことで、農作物被害や生態系への影響を及ぼしています。

アライグマの繁殖力は非常に高く、1匹が1年間に約100匹の子を産みます。また、アライグマは、冬に冬眠せず、年中活動しています。そのため、被害は年々拡大しています。

アライグマの駆除には、檻や罠などの物理的対策と、化学的駆除剤の使用が有効です。また、アライグマの生息地を調査し、予防対策を講ずることが重要です。

主催：京都府総合政策環境部自然環境保全課

協力：特定非営利活動法人やましろ里山の会

京都府京田辺市田辺深田 0774-64-4183